

自伐林業の実践に向けて～作業道開設・集材技術研修会を開催

1 はじめに

宮古・下閉伊モノづくりネットワーク林産部会(事務局:林務室)では、今年度から「いわて三陸自伐林業モデル事業」に取り組んでいます。

この事業は、三陸の農山漁村活性化のため、森林資源を活用して、副業としての自伐林業の魅力を発信するとともに、自伐林家を地域の森林・林業の新たな担い手として育成することを目的に、今年から始めました。

2 フォーラムの開催

9月22日には、宮古「シートピアなあと」にてフォーラムを開催し、NPO 法人持続可能な環境共生林業を実現する自伐型林業推進協会の中嶋健造代表理事による基調講演のほか、林産部会員による高知県での先行事例調査の報告や、県内で先駆的に取り組んでいるNPO法人吉里吉里国の芳賀正彦理事長を交えて、自伐林業の可能性について活発な意見交換を行いました。

3 技術研修会の開催

自伐林業に必要な作業道開設や木材生産等の実践的な技術を習得するため、12月4日、5日、11日の3日間にわたり、技術研修会を開催しました。

フォーラム参加者に技術研修会を案内したところ、およそ半数の12名の方の参加がありました。

(1) 作業道開設研修

ミニバックホウ(3t)と小型トラック(2t)による搬出間伐を実践してきた奈良県在住の作業道アドバイザー野村正夫さんを招き、「壊れない道づくり」を研修しました。

現場では実際にバックホウを使い、ルート選

定からヘアピンカーブの開設まで実践していただきました。



(2) 集材研修

林内作業車による「土佐の森方式」と呼ばれる軽架線集材を実践しているNPO法人吉里吉里国の作業チーム3名を招いて研修しました。

特製のキャリヤを主索に沿わせ林内作業車のウィンチで丸太を引き上げる方法で、4mの丸太を玉掛けから機械操作までの集材作業を体験しました。



4 おわりに

参加者には仕事の合間に参加された方も多く、全日参加できた人は半分程でした。自伐林業への関心は皆さん高かったことから、初めての方でも取り組めるよう工夫しながら、今後とも必要な研修を開催していきます。